

ワクチン接種後の頭痛

疑えば、キリがなく不安が広がる。疑わなければ楽だが、どんな結末が待っているか分からない。

36歳のFさん。片頭痛の患者さん。コロナワクチンの2回目の注射をした翌日から4日も経つのに、ずっと頭痛が続いている。片頭痛とは違って、頭の上に石が乗ったみたいだ。「そう言われれば、いきなり始まったかも。では、やはり?」と、絶句した。

F子さんは、最初はワクチン接種による副反応の頭痛だと思っていた。確かに、日本での調査で、若い女性で慢性頭痛のひとにコロナワクチンの接種後に頭痛が起きやすいうことは分かっている。

頭痛が発生するまでの時間の中央値は、1回目では10時間、2回目では12時間後。持続時間の中央値は、1回目では4.5時間、2回目では8時間だったという。個人差は大きく、24時間以上続くものもあるようだ。

でも、F子さんの頭痛は、いきなり始まって、3、4日も続いている。となれば、

新米の脳外科医者でも身震いするだろう。ひょっとして、頭の怖い病気か? まずは、くも膜下出血。脳出血に脳腫瘍など。見落としてせば、患者さんも医者も命取りになる。

というわけで、頭のCT(コンピュータ断層撮影)やMRI(磁気共鳴画像)の検査をする。と、3日ほどの小さな脳動脈瘤が見つかったではないか。だが、動脈瘤の破れ方が軽かったせいか、出血そのものを確認できないのである。更に、腰椎穿刺をして、脳脊髄液で出血の有無を確かめなければなるまい。出血していれば、再出血予防のために手術が必要になる。

コロナワクチン接種後の頭痛は稀なものではない。だが、頭痛が3、4日。いや、それ以上続くなら、副反応以外の原因も否定はできない。まずは、その疑いを持たねば。後は、医者任せにしよう。

(石黒修三「いへろクリニック・脳神経

外科専門医」11/8北國新聞掲載)